

平成20年度 第2回小平市史編さん委員会要録

1. 日時 平成21年3月7日(土) 午後2時~4時
2. 会場 中央図書館会議室
3. 出席者 市史編さん委員7名 欠席2名 事務局3名 傍聴者0名
4. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 部長挨拶
 - (3) 委員長挨拶
 - (4) 委員の紹介
 - (5) 報告
 - ・市史研究の編集について
 - ・市史編さん事業の進捗状況について
 - ・平成21年度予算について
 - (6) 議事
 - ・調査・研究の進め方と課題について
 - ・史料集の構成と内容について
 - (7) 閉会

配布資料 市史研究の編集方針について 平成20年度市史編さん事業の進捗状況

<会議の概要>

・部長挨拶

10月に第1回の委員会から半年経過した。この間委員の先生の意欲的な取り組みに感謝する。

来年度予算は厳しい状況であるが、できるだけ節減に努めながら市制50年に向けて着々と進め、誇れる成果を上げたい。

今年度の主要な課題である「市史研究」の編集・出版事業は、編集作業が順調に進み、今月末には小平市史編さん事業の最初の刊行物として出版する予定である。

近世・近現代編は定期的に研究会を開催して研究を進め、民俗編については調査計画を立てて予備調査を開始した。市史編さん担当は古文書や市役所の公文書の調査を行い、基礎資料の整理が順調に進んでいる。

本日は、市史研究の編集、市史編さん事業の進捗状況、平成21年度予算の3点の報

告と、調査・研究の進め方と課題と史料集の構成と内容の2点の審議をお願いしたい。

- ・委員長挨拶

取り立てて申し上げることはないが、「市史研究」に編さん委員の皆さんがそれぞれの思いや研究方針について書かれているので、読んで情報交換に役立ててほしい。

来年度からいよいよ本格的に動き出すということなので、よろしくをお願いしたい。

- ・事務局より、配布資料に基づき報告事項の説明及び議題の説明

- ・議題に対する質疑応答等

委員長：委員の皆さんに今までの問題点や成果などについて報告してほしい。

委員：市民との語り合いの中で情報を集め、皆さまに提供していきたい。

委員：「小平町誌」に今の段階で何を付け加えたらよいかを考えている。史料集を見ると小平市は史料的にも恵まれていて、これまでの蓄積が相当あるので、それを活用していくことが大事だと感じている。

委員：研究会と調査を行い、実際に市内を歩いてみている。学校の調査では成果があり、中学生の生徒会報には短歌が載っていて市史本編にも使える。小平は戦時中にも人口流入があり、その実態を知ることができる史料がある。来年度は公民館の資料調査を行い、目録を作成したいと考えている。

委員：考古・自然・民俗編は、民俗編をまとめるのと、3分野の調整をして編集体制をとると二つの課題がある。考古編は新たな発掘調査はせずに、これまでの発掘研究史の全体像が分かるものにしたい。鈴木遺跡が中心になるが、近世も含めてどのようなものが書けるか年内にある程度のプランを固めたい。自然編は近いうちに打ち合わせを行う。民俗編は、本格的な調査に入る。4人の研究者が分担分野を決めて調査を進める。年4回ぐらい研究会を行い作戦会議と情報交換をする。目次構成や執筆分担については、来年度中には明確な線が出ると思う。研究を進めるうえで、近現代編との調整が大事なので交流を図りたい。

委員：民俗編の手伝いができると思う。郷土研究会で調査した時に、市内に二宮金次郎の像が三つあることを確認した。西瓜の聞き書きでは、地域によって出す市場が違うことが分かった。

委員：近現代編では活発に研究会をしている。未だフィールドワークや資料調査はしていないが、来年度は本腰を入れていかなければいけないと感じている。市政に関する資料に目を通して考えてみたいと思っている。調査専門委員が行った資料調査の成果について速報を提供してもらい、情報が共有できるシステムや関係を作してほしい。

委員長：次に、史料集の構成と内容について確認したい。

事務局：21年度に2冊、22年度に2冊、23年度に1冊の合計5冊を刊行する予定。

委員：内容については、事務局とも相談して、21年度は議事録や役場関係文書を中心にまとめたい。22年度は教育と新聞記事をテーマにしてはどうかと検討している。23年度は近現代編の資料編的なものにしたい。

委員長：特に意見がないようだが、これらの議事については今後も検討することになり深まっていくものと思う。よろしくご協力いただきたい。最後に、次回から議事録を作成して配布してほしい。